



令和5年度宮島学センター企画展示 「宮島を描いた浮世絵」

宮島学センターでは、宮島観光協会と連携して、令和6年3月1日(金)から3月11日(月)にかけて、宮島の町家通りに所在する「ぎゃらりい宮郷」で学生参加の企画展示「宮島を描いた浮世絵」を実施しました。

会期が3月であり、「宮島学センター通信第15号」(令和6年3月発行)に掲載できなかったため、本号において実施報告をいたします。



展示チラシ

この企画展示では、歌川広重や月岡芳年などが描いた浮世絵10点余を展示し、作品に描かれる江戸～明治期の宮島について紹介しました。この展示は、本学で「宮島学」を学び、かつ学芸員養成プログラムを履修する学生12名と、宮島学センターの教員が企画しました。

この展示には、延べ432名の方にご来場いただきました。来場者にご回答いただいたアンケートには、「宮島にまつわる様々な錦絵を一度に見ることができて、とてもよかった」「描かれている時代も、宮島が賑わっていたことがわかって、とても興味深かった」といったご感想をお寄せいただきました。

また、展示会場には、明治期の作品に描かれた「厳島八景」と、現在の写真を比較するコーナーも設けました。そのため、ご来場いただいた方からは、「実際に厳島八景に行ってみたくなった」という声も多くいただきました。



展示会場の様子

ご来場者の中には、作品に描かれる宮島の社寺や祭礼、景観等について、具体的な情報をご提供くださる方もいらっしゃいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

なお、企画展示の図録として、小冊子「宮島を描いた浮世絵」を令和6年3月に発行しました。

展示にご来場いただいた方や、浮世絵をテーマにした本学の公開講座等で配布しました。



令和7年3月に、馬本勉教授による英語翻訳版の小冊子を発行する予定です。

令和5年度宮島学センターパネル展示 「宮島浮世絵くいず」

令和6年2月10日(土)から3月11日(月)にかけて、表参道商店街TOTO宮島おもてなしトイレ2階観光情報スペースにおいて、パネル展示「宮島浮世絵くいず」を実施しました。



展示チラシ

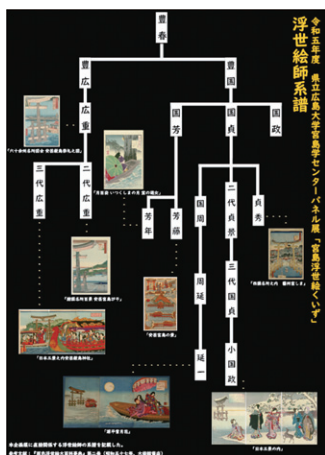
本パネル展には、延べ1606名の方にご来場いただき、そのうち19名の方にアンケートへのご協力をいただきました。



展示会場の様子

このパネル展示は、同時期に開催した企画展「宮島を描いた浮世絵」との連動企画として実施しました。

企画展で展示した浮世絵や、宮島の魅力を知っていただくため、浮世絵の見どころや解説をまとめたパネルを展示しました。



また、地域創生学部地域創生学科地域文化コース4年生の温啓亨さんが、歌川派の絵師の師弟関係と、宮島を題材にして描いた作品の関係がひと目でわかるような系譜を作成し、会場に展示しました。

さらには、浮世絵について気軽に楽しみながら知識を深めていただくためのクイズも実施しました。

パネル展示にご来場いただいた方からは、「浮世絵のすばらしさや、かくされた秘密を、クイズを通して楽しく知ることができた」や「クイズを見た後、再び浮世絵を見るとより興味深く鑑賞できた」といったご感想が寄せられました。



学生が作成したクイズの例

令和6年度宮島学センターパネル展示 「宮島を描いた絵図」

宮島観光協会と連携して、令和6年度宮島学センター企画展示(パネル展示)を実施しました。

展示テーマは「宮島を描いた絵図」で、会期は令和6年10月24日(木)から11月21日(木)でした。



展示チラシ

このパネル展示は、令和6年度に「博物館展示論」や「博物館教育論」を受講した学生15名が原案を作成しました。

展示の準備期間は、記録的な猛暑日が続いた令和6年7月～9月でしたが、学生は絵図に描かれる社寺や名所を自分の足で探訪して、作品の解説原稿を作成しました。

この企画展示には、延べ982名の方がご来場になり、このうち206名の方がアンケートにご協力くださいました。

アンケートにお寄せいただいた感想の中には、「絵図を見ただけではわからないことがパネルとクイズで解説され、理解しやすく良い展示でした。現在ではどうなっている場所かを比較してある点が、これから島を見て回るのに役立ちます。」といった声もありました。

なお、令和7年3月には、この企画展示の成果物として、パネルの内容をまとめた小冊子「宮島を描いた絵図」を発行する予定です。



令和6年度フィールドワーク

1 厳島神社管絃祭 ちょうちん作りボランティア

日 時：令和6年7月22日（月）（旧暦6月17日）
18時30分～21時

場 所：長浜神社周辺（廿日市市宮島町）

参加者：17名（学生13名〈いずれも地域創生学部〉、
教職員4名）

このフィールドワークでは、宮島観光協会が主催する管絃祭ちょうちん作りに、本学の学生と教職員がボランティアとして参加しました。当日は宮島学園（宮島小中学校）の児童・生徒らとともにおよそ1000個のちょうちんを作成し、長浜神社の参拝者に手渡ししました。



ちょうちんを作成する学生たち

参加者が作成したちょうちんは、地御前から長浜神社、長浜神社から大元神社に渡る御座船や漕船を出迎える際に利用されました。

2 宮島歴史散歩～パネル展示・厳島神社宝物館・ 宮島歴史民俗資料館見学～

日 時：令和6年11月9日（土）9時40分～13時
場 所：厳島神社周辺（廿日市市宮島町）

参加者：13名（学生8名〈いずれも地域創生学部〉、
教職員5名）

コース：宮島栈橋～パネル展示「宮島を描いた絵図」

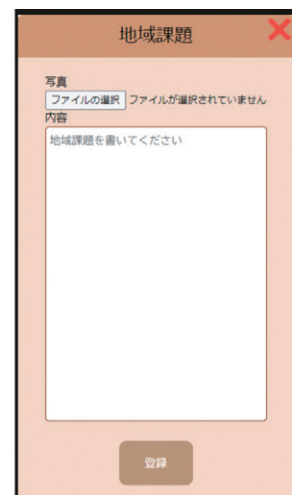
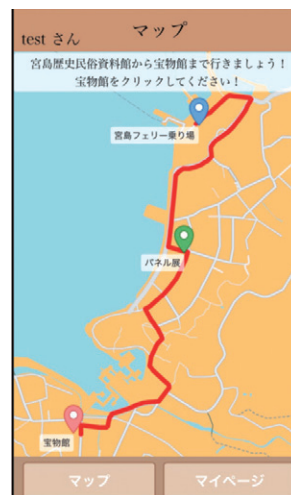
～厳島神社宝物館～宮島歴史民俗資料館

このフィールドワークでは、宮島散策を楽しみながら、厳島神社の宝物館、宮島学センターパネル展示「宮島を描いた絵図」、宮島歴史民俗資料館を訪れました。

このフィールドワークに参加した学生は、いずれも地域文化コース2年次に開講している科目「宮島学」を受講しており、講義で学んだ内容と現地での体験を結び付けながら学びを深めました。

また、このフィールドワークでは、黄映仁さん（地域産業コース4年生）が卒業研究で開発している「宮島フィールドワーク学習支援アプリ」の活用実験も行いました。

黄さんは、宇野健准教授のゼミでフィールドワークでの学生の気づき・質問の記録の視点からアプリの開発を行っています。



アプリの画像

このアプリでは、フィールドワークのスポット順序や流れを確認できる機能に加え、フィールドワーク中に各スポットで得た気づきや質問と学生が感じた地域課題をその場で記録することが出来ます。



アプリを活用しながら、令和6年度宮島学センターパネル展示「宮島を描いた絵図」を鑑賞する学生



宝物館の鑑賞後、アプリに寄せられた学生の感想や質問を取り上げ、本学の教員が舞楽装束について解説する様子

フィールドワークでは、参加学生が実際にアプリを使ってクイズやメモを利用し、学びを深めました。



令和6年度の「宮島学」関係科目

本年度に開講した「宮島学」関係科目は、①地域創生学部同学科地域文化コース2年次配当の「宮島学」、②全学共通教育2年次配当科目「地域教養ゼミナールA」の「宮島観光学入門(英語)」です。また、第4クォーターには、③地域文化コース3年次配当の「宮島観光学(英語)」を開講する予定です。

1 宮島学

(地域文化コース2年次配当科目)

開講期間：第3クォーター金曜日1・2コマ

授業の形態：対面

履修学生：38名

授業の構成		
1	9 / 27	宮島学について (初回ガイダンス)
2	9 / 27	平清盛とその時代
3	10 / 4	平清盛の経済施策と厳島神社
4	10 / 4	厳島神社の宝物
5	10 / 11	『平家物語』に描かれる厳島①
6	10 / 11	『平家物語』に描かれる厳島②
7	10 / 18	厳島神社の歴史と大鳥居
8	10 / 18	厳島八景と八幡八景
9	10 / 25	厳島を訪れた人びと、支えた人びと ー『石風呂入治記』を中心にー
10	10 / 25	英語で伝える宮島 明治期に訪れた 外国人の見た宮島
11	11 / 1	「孫文」を通して見る宮島
12	11 / 1	宮島学センター所蔵資料を楽しむ
13	11 / 8	宮島と ICT
14	11 / 8	宮島のアプリ
15	11 / 15	担当教員全員によるパネルディスカッション

第4回は、授業内講師として恵美千鶴子さんをお招きしました。恵美さんには、「厳島神社の宝物」と題して特別授業を実施していただきました。学芸員としての職務内容の詳細に加えて、国宝「平家納経」の魅力についてご教示いただきました。



2 宮島観光学入門(英語)

(全学共通教育2年次配当科目「地域教養ゼミナールA」)

開講期間：第3クォーター(集中講義)

授業形態：対面授業(広島キャンパス・3日間)およびフィールドワーク(宮島・2日間)

担当教員：馬本 勉、Richard Weber(非常勤講師)

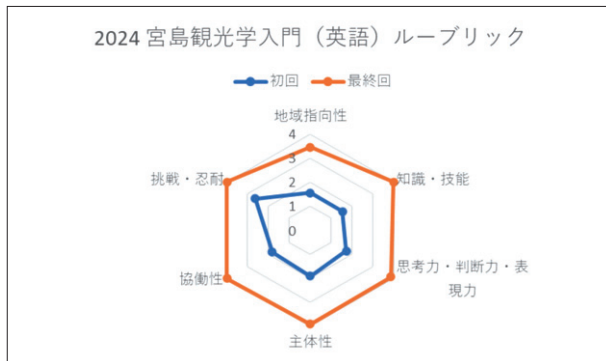
履修学生：12名

授業の構成		
日	実施日	内 容
1	10 / 6	10:40 - 16:10 【3コマ】 英語演習／宮島についての事前学習
2	10 / 13	10:40 - 16:10 【3コマ】 フィールドワーク① (ガイド予定箇所実地見学)
3	10 / 27	10:40 - 16:10 【3コマ】 バーチャルツアー (模擬ガイド演習)
4	11 / 10	10:40 - 16:10 【3コマ】 フィールドワーク② (英語ガイド実践演習)
5	11 / 17	10:40 - 16:10 【3コマ】 フィールドワークの振り返り 英語ガイドプレゼンテーション

フィールドワーク①(10月13日)では、宮島でのガイド予定箇所の実地見学を行い、同②(11月10日)ではアジア各国からの留学生5名に対する英語ガイド実践演習を行いました。



集中講義前後の科目ルーブリック自己評価（6観点、各5段階評価）の結果から、履修学生が授業を通じて成長を実感している様子が見て取れました。



（馬本 勉）

3 宮島観光学（英語）

（地域文化コース3年次配当科目）

「宮島観光学（英語）」（3年次）は、今年度も第4クォーターに実施します。



令和6年度宮島学センター公開講座

廿日市市教育委員会と共催して、etto宮島交流館（宮島まちづくり交流センター、廿日市市宮島町412）において、以下の公開講座を実施しました。

第1回

「宮島ホテルの英文ガイドブック」

日時：令和6年9月4日（水）14時30分～16時

講師：馬本勉教授

受講者：58名

第2回

「宮島の東町の形成と発展」

日時：令和6年11月20日（水）14時30分～16時

講師：秋山伸隆名誉教授（宮島学センター学外協力員）

受講者：83名

第3回（予定）

「宮島を愛した人々—中世考古学、中国文学、日本文学の視点から—」

日時：令和7年2月12日（水）13時30分～16時

講師：鈴木康之教授、西本寮子教授、柳川順子教授

研究余録⑬

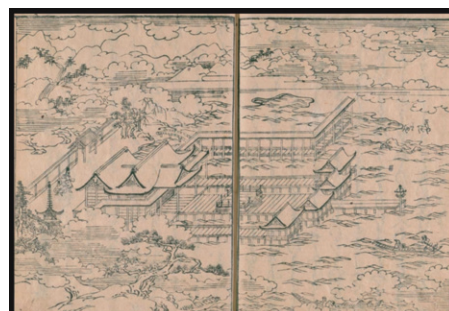
厳島神社の平舞台から延びる足場、火焼前（ひたさき）の先に一基の灯籠が立っている。灯籠越しに大鳥居を臨む光景は、一種の「映え」スポットらしく、写真撮影の列が絶えない名所になっている。この灯籠が、寛文～元禄（1661～1703）の頃成立とされる水戸徳川家旧蔵『源平盛衰記絵巻』の厳島社殿に描かれている。つまり、江戸前期から宮島のランドマークであったことがわかるのだ。

火焼前の灯籠について、現在の灯籠には、「岩寛文十龍集庚戌」と刻まれており、寛文十年（1670）に寄進されたものであることが判る。もし『源平盛衰記絵巻』に描かれている灯籠が、現在残っている灯籠だとするならば、絵巻の成立は寛文十年以降ということになる。であるならば、これまでの研究で言われてきた寛文～元禄期における絵巻制作という考えを覆しかねない。が、さすがにそれはなく、『源平盛衰記絵巻』に描かれている火焼前の灯籠は、現在の灯籠ではなく、先代の灯籠なのだろう。

さらに調べ物を進める中で、明暦二年（1656）刊行の『厳島の本地』に、『源平盛衰記絵巻』と同様の厳島神社社殿、火焼前の灯籠が描かれていることが確認できた（図、国立国会図書館デジタルコレクションより転載）。これで先代の灯籠の存在が証明されたことになる。

ここで新たな課題が出てきた。①〈平家絵〉と『厳島の本地』が同一工房で作成されていた可能性がある。ただし、同じ明暦二年刊行の『平家物語』絵入り版本に厳島社殿は描かれない。②社殿の裏側に描かれた親子の存在について、この指さす稚児は案内者と解釈でき、同様の稚児は宮島歴史民俗資料館蔵『厳島の本地絵巻』にも確認できる。ようするに、「厳島参詣曼荼羅」のような存在を推定してみたくなるのだ。

紙幅の都合もあり、今回は問題の提示に留めた



い。今後論文にまとめていくことにする。

（目黒将史）

国立国会図書館蔵、明暦版『厳島の本地』挿絵

全国厳島神社参詣記⑬

冠纓神社境内の厳島神社
—信仰と自然が調和する美しい景観—

参拝日時：2024年12月9日

所在地：〒761-1402 香川県高松市香南町由佐1409

厳島神社は冠纓神社の境内に位置する小祠であり、主祭神を祀る冠纓神社本殿とは別個に建立されている。冠纓神社の境内には、厳島神社をはじめ、龍王神社、安倍晴明神社、白鳥神社など複数の社が鎮座しており、それぞれが地域の信仰や神事において重要な役割を果たしている。その中でも厳島神社は、池の中に石垣で囲まれた小島の上に建てられており、その独特な配置が美しい景観を形成している。池に浮かぶ小島へ続く参道には石橋が架けられ、その先に小祠の拝殿が静かに佇んでいる。参道の両側には石灯笼が設置されており、参拝者を迎えるかのように静謐な空間を演出している。

当神社の建築は木造の小規模な祠形式であり、随所に伝統的な日本建築の要素が見られる。屋根には銅板葺きが施され、その上には千木（ちぎ）が配されている。この構造は、伝統的な神社建築の格式と美しさを象徴している。また、この小祠の左側には、昭和五十七年（1982年）十二月に建立された「厳島神社御本殿御造営記念碑」があり、本殿造営の意義と歴史が記されている。

池の水面には祠と周囲の豊かな緑が映り込み、四季折々に異なる表情を見せる。この風景は、宮島の厳島神社を思わせる趣を湛えており、自然と建築が見事に調和している。厳島神社は冠纓神社の境内において特に象徴的な存在であり、その美しい佇まいは絵画のような風情を持つ。地域の人々にとっては信仰の対象であると同時に、自然の恵みと調和した文化的価値を体現する場として、後世に残すべき重要な信仰の地となっている。



厳島神社の景観

(鄭銀志)



厳島神社御本殿御造営記念碑



小祠の拝殿

福田道憲さんのこと

長年にわたり本センターの活動をご支援くださった福田道憲さんが、令和6年12月21日に永眠されました。

福田さんは、本センターの開所式（平成21年4月）にもご出席くださり、本学の教員や学生が宮島へと踏み出す背中を押してくださいました。

特に、宮島における調査研究活動や連携事業は、福田さんのお導き無くしては成し遂げられないことでした。

また、学生とともに宮島を訪れた際には、福田さんご自身のお言葉で、厳島神社の歴史や宮島の文化についてご教示くださいました。

いつも、私たちの歩みを温かくご支援くださり、企画展示やフィールドワークの折には、様々なご指導・ご助言も賜りました。

心から感謝を申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

編集・発行

宮島学センター通信 第16号

令和7年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9534 (地域連携センター内)

E-mail: miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/>

宮島学センターデジタルアーカイブサイト

<http://mjp.pu-hiroshima.ac.jp/mjarchive/>